



株式会社大京 の巻

【お話を伺った方々】 ■グループ人事部 業務推進役 青野康子さん
 ■グループ人事部 コーポレートブランド推進室係長 佐藤弥生さん
 ■グループ総務部 ワークサポート課長 千葉洋さん
 【聞き手】 認定NPO法人ぱれっと事務局長 南山達郎 【記事作成】 工房ぱれっと 村井沙和子

「企業訪問」第5回は「株式会社大京」様です。現在本社を始め3か所のオフィスでの定期的な販売会やぱれっとバザーへのご協力等、いつも様々なご支援をいただいています。今回は、ぱれっととの出会いから、会社での社会貢献活動、障がい者雇用についてもお聞きしました。

●ぱれっとのかかわり

《南山》ぱれっととつながるきっかけは何でしたか？

《青野》2008年4月に「グループCSR推進室」(以下、推進室)が設立され、まず何ができるか考えていた時、富士ゼロックス株式会社様でおかし屋ぱれっとの販売会をやっていることを知りました。それが2008年8月15日で、翌16日にはぱれっとを訪問しました。実際にクッキーを作っている所をこの目で見て、持ち帰って皆で試食をしたら味もおいしかった。これなら自信を持って販売できる、じゃあやろうよ！とすぐ決定しました。初回の販売会は9月8日でした。《南山》動き出してから決まるまでが本当に早いですね！

《青野》「社員一人ひとりが参画できる社会貢献って何だろう」と考えていたので、販売会ならクッキーを買うことで参画できますよね。ぱれっとは本社と同じ渋谷区にあって、大手企業での販売会実績もある。クッキーの味も間違いないということで悩む所がありませんでした。その後始まったお昼のスリランカカレーの販売も大変人気でしたね。

《南山》販売会に対する社員の方々の声

はいかがですか？

《佐藤》好評です。ぱれっとの商品は手作り感があっていいですね。

《青野》今では社員が販売会に当たり前のように来てくれます。バナナのパウンドケーキ等、限定商品は特に人気です。

《南山》バナナのパウンドケーキと云えば、かつて私が販売会に伺っていた時、このケーキを朝食用にとたくさん買ってくださる方がいたので、いつも多めに用意していたことを思い出します。社員の方々がぱれっとの商品に愛情を持ってくださっているのを感じます。

●「一緒に仕事をしようよ」

《南山》御社では推進室ができる前からすでに障がいのある人が働いていたそうですね。

《青野》当初は社内の清掃がメインでした。でも清掃業務だけでは、他の社員と同じフロアに入って一緒に働く機会が少なかったのです。「一緒に仕事をしようよ」という観点で徐々に職種を増やして、現在ではメール業務、フロア内のシュレッダー機の袋の回収やコピー用紙の補給等もお願いしています。それによって皆が同じ空間で働いています。

《南山》一緒に仕事をしようというのは

なかなか言えることではないですよ。《青野》皆同じ社員なのです。まずはお互いに理解しあうことが重要だと思います。

《佐藤》現在はグループ人事部やグループ総務部でも、障がいのある社員が席を並べて働いています。

●社員一人ひとりが取り組む社会貢献

《南山》障がい者雇用に限らず、社会貢献に対する社員の意識はどうですか？

《佐藤》大京グループは、従業員の行動規範の一つとして、『一人の「良識」から』を掲げ、一人ひとりが企業市民として、地域発展と住文化の向上に努めることとしており、その旨の小冊子を常時携帯し振り返るようにしています。

《青野》社会貢献とは一部の部署がやるものではなく社員一人ひとりが意識するものだと思います。「私に何ができるのだろう」という視点で考え、AEDの設置・講習等さまざまな活動を行ってきました。ぱれっとの販売会も2008年から今日まで継続していることを嬉しく思います。

●ハンドメイドのコーヒー販売

《南山》社内のコーヒー販売はどういった経緯で始まりましたか？

《千葉》弊社グループでは、現在約200名の障がいのある方が就労しています。ワークサポート課は、2011年10月に、大京グループとして、障がいのある方

の就労拡大を推進しなければとの考えのもと、本社に専門組織として設けました。

ハンドドリップコーヒーの社内販売は、障がいのある方の得意なこととそうでないことを見極めて、どういった仕事ができるのか考えながら職種を増やしていく中で、始めたものです。例えば自閉症の方は対人の仕事は苦手と言われますが、慣れれば正確にこなせています。仕事を円滑に進めるため、現金のやり取りをなくす方法として、ガチャガチャのカプセルを引換券として利用する方法も考えました。当たりくじを付けて、ワクワクする工夫もしています。

また、現在はコーヒーのお供で食べられる様、ぱれっとのクッキーを小袋でご用意いただき、一緒に販売しています。

いまや、ワークサポート課メンバーが入れるコーヒーは、社内会議でも注文があります。

《南山》販売等の仕事で、自分の働きが役に立って人からありがとうと言われることはやりがいにつながります。

《青野》販売の売上が給料になるという話だけではなくて、自分で作ったものが自分の見えるところで売れるという体験が大事なのだなと、ぱれっとの皆さんのお付き合いを通じて感じました。

《南山》本当にそうですね。今日は貴重なお話をありがとうございました。

【取材を終えて】出会いから9年間、変わらぬ熱意を持ってぱれっとを支えてくださっている大京様。社員一人ひとりの意識や行動を大切にして社会貢献を続けてこられたことが分かりました。取材後日、ぱれっと商品を社内イベントで活用しているエピソードを話そびれていたと青野様が改めてお電話をくださり、大変感動しました。(工房ぱれっと 村井沙和子)